

カリキュラム Curriculum	文学研究科MC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
202	日本語学史(通年) <History of Studies in Japanese Linguistics>			講義
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)		開講期 Semester	開講時間帯 Day and time
日本語学	釘貫 亨(KUGINUKI, Toru)		後期	木曜：4限
講義題目 Title	日本語学史の研究			
単位 Credit	2			
備考 Others	専修			
履修条件 注意事項 Requirements for registration	特に定めない。			
授業の目的 Purpose	日本語研究の歴史を概観して、先人がどのような学問的情熱を傾けて日本語的事実と向かい合ってきたのかを再建することを通じて、日本語研究の今日的意義を考える契機を把握することを目的とするとともに、日本語（国語）に関するより専門的な知識を身につけることにも対応する。 This course introduces History of Studies in Japanese Linguistics to students taking this course.			
授業の内容 授業の方法 Content	<p>日本語研究は、鎌倉時代の王朝古典文学を解釈する営みとして発足し、テニヲハと仮名遣いを車の両輪のように発展した。近世期には、テニヲハは係り結びと活用論に、仮名遣いは古代語音声再建の学術として飛躍した。近代の国語学、日本語学は近世の日本語研究を知的資源にして成立した。授業では学説史の叙述が可能になる近世以後の研究史を主として講ずる。</p> <p>授業計画</p> <p>日本語研究の今日的意義を学説史再建を通じて考える。</p> <p>第1回：日本における文字の導入と文字社会の成立</p> <p>第2回：日本語表記の成立と古代社会</p> <p>第3回：宣命と和歌表記</p> <p>第4回：平仮名文芸の成立と発展</p> <p>第5回：日本語研究の前史と成立史</p> <p>第6回：古典注釈と日本語研究</p> <p>第7回：テニヲハと仮名遣い</p> <p>第8回：中世の学術伝統</p> <p>第9回：近世知識社会の形成</p> <p>第10回：万葉集注釈と近世仮名遣い論の成立</p> <p>第11回：喉音三行弁論と古代語音声の再建</p> <p>第12回：喉音三行弁論争の学説史的意義</p> <p>第13回：歌学と近世てにをは学の成立</p> <p>第14回：係り結びと活用論</p> <p>第15回：日本語研究の近代化の枠組み</p>			
教科書 テキスト Textbooks	必要に応じてプリントを配付する。			
参考書 References	釘貫亨『近世仮名遣い論の研究』（名古屋大学出版会2007） 釘貫亨・宮地朝子編『ことばに向かう日本の学知』（ひつじ書房2011）			
受講生の 自宅学習 Preparation and review				

成績評価の方法と基準 Evaluation	レポートによる
連絡方法 Contact information	